

「ものづくり機械科」新設

ポリテクセンター 溶接技術訓練、実習場も整備



ものづくり機械科新設に合わせ、センター内に設置した溶接の実習ブース

ポリテクセンター函館（日吉町3、近藤二郎訓練センター長）は1月、溶接や機械加工の技術を身に付け、ける「ものづくり機械科」を新設した。造船業や建設業で必要となる溶接技術を学ぶカリキュラムが新たに

加わり、センター内には溶接の実習場も整備した。

同センターは1963年に開設。受講無料で求職者の再就職に向けた公共職業訓練を提供。ものづくり機械のほか、ビル管理技術、住宅リフォーム技術、電気設備技術、ビジネスワークの5コースを開講。修了まで6カ月訓練する。

ものづくり機械科は、昨年まであった機械製図や、ねじなどの加工を学ぶCADオペレーション科を再編し、訓練内容に溶接技術を加える形で新設した。

函館の造船業では溶接技術者らの人材不足が深刻化。60〜80代が現役で働くなど高齢化が課題となっている。こうした現状を踏まえ、業界からは造船業への若年層の就職を望む声が寄

せられており、今回の学科新設の契機となった。

同科では造船業のほか、鉄骨構造物を扱う建設業で求められる鉄鋼材の溶接を中心に学び、作業に必要なクレーン運転やワイヤーの取り付けなどもカリキュラムで身に付ける。新設した溶接の実習場には、16カ所の溶接ブースを設置。今年1月からは6人が同科で学び、就職に向けて日々経験を積んでいる。

中谷努訓練課長は「造船業では従事者の高齢化が進む中、手に職を付けた若い人材を送り出し、業界を活性化づきたい。転職、離職を機に、ものづくりに興味を持ち、一生の仕事にしてほしい」と入所を呼び掛ける。

（飯尾遼太）